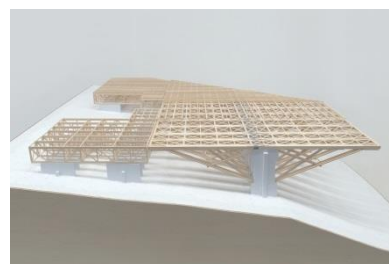


今年を振り返って

平成 26 年 12 月 19 日  
大規模木造建築サービスセンター  
事務局 山井 宏友

先ずは、2月8日と15日2週間連続での大雪が関東地方を襲いました。埼玉県や東京で大規模な屋根の崩落が相次ぎました。国土交通省は、雪の重みに耐えられる様に、設計基準を見直す事を決めました。8月20日の広島市安佐北区で大雨による土砂災害で74人が犠牲になった。開発を認めた自治体にも責任のある人的災害と言える。また、土砂災害防止法に基づき、警戒地域とすべきところ住民説明に時間が掛かり、何の対策も取られず被害にあった。住民側は、自宅の資産価値が下がると警戒地域指定を嫌ったとの話も飛び出しました。建築に携わる者として、地盤対策の重要性を改めて考えさせられました。そして、9月27日御嶽山の噴火、57名が犠牲になりました。小笠原諸島西之島の溶岩で島が拡大する姿、阿蘇山で連続する噴火。更には、富士山もいつ噴火してもおかしくないと言った情報も飛び交っています。活火山の多い日本を認識させられました。11月22日の長野県北部震度6弱の地震。糸魚川―静岡構造線断層の北部に位置する神城断層が動いた。最大加速度 589ガル加速度応答スペクトルで、0.5秒以下の短周期の直下型地震だった。1995年の阪神淡路大震災の卓越周期が1~2秒で住宅固有周期と合うキラーパルスで、共振して被害を大きくしましたが、長野では共振はなく死者もなかった。被害が比較的大きくならなかったのは、この周期によるものと思われれます。しかし、こうした自然災害を乗り越えて、人命を守る建物を建てないといけないと肝に銘じた1年でした。

大規模木造建築サービスセンターとして、法政大学の網野教授から依頼を受けた構造計算でメンバーの M's 構造設計の参画をお願いした。青蓮院門跡飛び地青龍殿舞台は、日経アーキテクチャー、日刊木材新聞、新建ハウジング、新住宅ジャーナルの取材を受けて、地元京都の NHK も取材に来る代表的な実績となりました。日本木造住宅産業協会の現場見学会も行い、注目を集める事が出来ました。

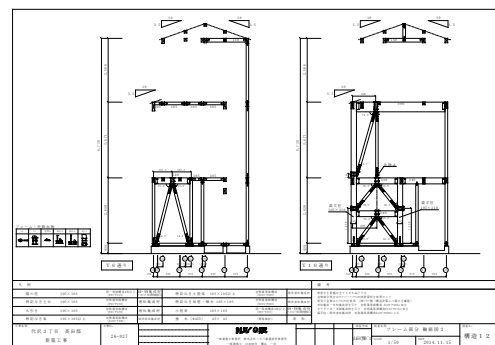




10月9日ムーブ町屋で行われた木造耐火住宅研究会主催の木造耐火の告示化のセミナーに協賛しました。国交省建築指導課 建築物防災対策室長の石崎和志氏、桜設計集団代表で早稲田大学客員招聘研究員

の安井昇氏ら講師に、大臣認定の告示化で、都内12区の建築指導課の方も参加、木住協及び2x4協会等業界団体からの参加もあり、230人ほど集まり盛況な会となりました。

また、10月25日カナダツガパートナーズ協会主催の大型木造建築物現場視察ツアーも協賛、大規模木造建築サービスセンターのメンバーでもある、ダイテックさん加工の協同組合いわき材加工センター荒川材木店 道作工場事務所では、製材品を使つてのJAS対応でJAS機械等級区分と含水率もチェックできる生産体制を見学。大径無垢材を用いた木構造の可能性と題した、山田憲明構造設計事務所の山田所長の説明で、高耐力壁の貫壁と重ね梁の取組を確認しました。



大規模木造建築サービスセンターでの当初より取組課題である一般流通材を使った中規模建築では、タツミのテックワン P3+を使って、金融機関のATM店舗に営業を常駐させる、支店レベルにならない案件で、新宿区の抜け弁天の6m間口の店舗を、11月末引渡し完了しました。今後は、ユナイテッドワンΛ

(ラムダ)との名称を使って、オリジナル接合金物として、実績伸ばして行きます。代沢の木造3階建て住宅でも、通常の耐力壁では対応出来ない設計も確認申請まで持ち込んでおり、実績伸ばしの一環として行きます。そして設計手法の確立を目指して行きます。

実績では、埼玉県羽生市の学童保育所は、意匠設計事務所に構造提案をして、躯体と構造設計を受注。今月、納品が終わったばかりです。神奈川県葉山市の保育園の構造は、桜構造設計集団で、プレカット加工のみですが、受注の見込み。また、昨年施工したあいづ道の駅は、建築技術の取材を受けており、掲載予定となっています。

会員の多くの方が独自に実績を伸ばしている事も併せて報告しておきます。来年は更なる会員同志の取組で結果を出して行けるようにしていきます。

以上